MOON-4 夜叉 ４　＜３３＞

みづき海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＭＯＯＮ－４　夜叉　４　＜３３＞

【Ｎコード】
Ｎ４３８８Ｎ

【作者名】
みづき海斗

【あらすじ】
夜の後には必ず新しい『朝』が訪れる。それを信じて・・・　・・
・
夜叉　４　第２章第５話です。

2．月夜（がつや）―5（前書き）

ＭＯＯＮシリーズ、残す所あとエピローグのみとなりました。ご愛読ありがとうございました。

2. 月夜（がつや）―5

和人は中空で背後から榊に羽交い絞めにされていた。
狼男（ウルフ・ガイ）のみが持つその力で。
「お嬢、今だ！」
榊が目の前の少女に叫ぶ。
「榊！」
桜は嬉しそうに微笑み、両手を頭上にかざした。
「和人っ！」
「和人っ！」
秀と裕希の声が彼方でする。
和人は右手を榊の脇腹へとのめり込ませた。
「！・・・　・・・」
苦痛に顔をしかめる榊。
「早く、お嬢！」
そういう榊とは別に、桜の表情には戸惑いがあった。
どうしても、その一撃が振り下ろせない・・・　・・・
そこへ、地上では一台の車が到着した。
朝子と早坂だった。
天空を見上げ、『状況』はすぐに判った。
「和人っ！」
朝子が叫ぶ。
早坂は素早く後部座席から『それ』を取り出して構えた。
ライフルだった。
「南無三！」

ガーンッ

一発の銃声が闇に響いた。

「・・・　・・・」
桜の目の前で。
榊は和人を解放した――その額から血を流しながら。
「・・・　・・・榊？」
ゆっくりと地上に向けて落ちて行く、榊。
桜の花びらが舞い起こった。
「そんな事ない。」
桜は再び、頭上に両腕をかざし、「榊が私を置いていくわけがないわ！」
そう叫び、その紅の炎を宿した両手を和人めがけて降ろす。
「和人っ！」
再び、宙を蹴り和人と光の渦との間に入ろうとする秀。
「逃げて、和人っ！」
朝子の悲鳴。
和人は身を翻した――が、間に合わない。
「和人！」
夜叉に抱かれた裕希は、夜叉の腰から龍王の剣を取り、彼女を足場に
中空へ身を躍らせた。
和人と桜の間に入り、閃光を正面に受ける。
「裕希っ！」
「裕希っ！」
和人と秀が叫ぶ中、
「もう誰もなくしたくない！」
そう叫び、剣を振り下ろした。

カシャ・・・ン

閃光を切り、下降しながら桜の元へと向かう。そして、そのまま、

ザッ・・・　・・・

桜目がけて、裕希は剣を振り下ろした。
噴き出た血が裕希の顔にもかかる。
「御見事。」
桜は―――金色とビリジアン・ブルーを混ぜた色の瞳を持つ桜は青年の声でそう言い、地上に向けて落下していった。
「・・・　・・・って。」
裕希は気付いた。
今、人間である自分が宙に浮いてる事に。
「落ちるーーーっ！！」
裕希は叫んで目を閉じた。
アスファルトはもうすぐ。
刹那。
体が宙に浮いた。
見上げると、そこに和人の姿があった。
「和人・・・　・・・」
「無茶する奴だな。」
和人は血に塗れながら微笑んだ。「もし、何かあったらどうする。」
地上へはあと少し。
伝えたい想いがあった。
それは、朝子と同じ事。
秀と同じ事。
「俺、和人の事、大好きだから！」
「裕希・・・　・・・！」

地上では朝子と秀、そして夜叉と早坂が待っていた。

空は―――東から明るくなってきている。

裕希を抱き、彼らの前に降り立った和人。
彼は裕希をおろした。
夏の朝の陽光が眩しい・・・　・・・
「やっと終わったわね。」
朝子が和人の顔を見ながら言う。
そして、彼に近づき、頬に付いた血を拭う。
「長い夜だったね。」
裕希は、秀と早坂に言った。
「ああ。」
秀もTシャツに血を滲ませながら、「本当に長い夜だったな。」
「誰かさんのせいで。」
和人に寄り添う朝子が舌を出す。
「秀さん。」
裕希は秀を見上げ、「おかえり、秀さん。」
そして、早坂に向かい、
「早坂さん、ありがとう。夜叉も。」
傍らの夜叉にも声をかける。そして、龍王の剣をその持ち主に返す。
「長かったのぉ。」
夜叉は微笑み、早坂は、
「裕希くんのＳＰも楽じゃないね。」
ライフル片手に苦笑いを浮かべる。
「みなさん。」
ふいに朝子が言った。「何か忘れてません？」
小首を傾げて、和人と裕希と秀に視線を向ける。
「え。」
彼らは少し戸惑った様に・・・　・・・
それから、思い出して声を揃えて言った。
「ただいま、朝子！」

「よろしい。」
長い髪を揺らして、満足気に微笑む。
「・・・　・・・ってか！」
早坂は思い出した風に、
「ヤバ！俺、無許可でライフル持ちだしたんだよな。署にも連絡入れてないや！」
「減棒だな。」
そう笑う秀を視線の片隅に、早坂は、
「もしもし！もしもーし！」
彼らから少し離れ携帯をかけていた。
「早坂さん、忙しそうだね。」
裕希が言うと、
「そうだな、でも」
和人が答える。「もうＳＰは必要ないかもな。」
「それって」
裕希は和人を見上げ、「また一緒に暮らせるの？大京町のマンションで。」
「ああ。」
微笑む和人。「また、化学と応用物理の勉強が待ってるぞ。」
「ひどいや！」
くすくすと笑う和人を裕希は膨れ顔で見つめた。
「また、仲良くやろうや。」
裕希の頭に手を置く秀。
「うん！」
月は沈みーーー夏の強い日差しだけが残った。

2. 月夜（がつや）―5（後書き）

また、何処かの作品で会いましょう。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4388n/

MOON-4 夜叉 ４　＜３３＞

2010年10月9日11時19分発行